松江商工会議所

地域経済季報

〈令和5年7～9月期〉

総評 今期は、とりわけ観光関連業では、全国旅行支援の延長を受け、さらに新型コロナウイルス感染症の5類移行などが追い風となり業況は好調に推移。また、新型コロナウイルス感染症の制約のない「松江水郷祭」では、打ち上げ数が両日1万発であったこともあり、宿泊客が増えた。総合量販店では衣料品や家庭用品などの購入が増え、個人消費の持ち直しが見られた。建設業・製造業の売上は横ばいとなっており、建設資材等の仕入単価の高騰が続いているため収益を圧迫している。また、慢性的な人手不足による労働力確保、担い手の不在などの問題も続いている。エネルギー価格や原材料価格の高騰は高止まりが続いており、価格転嫁ができておらず、収益の悪化を引き起こしており、すべての事業所に影響を及ぼしている。また、10月より開始されるインボイス制度について対応できるか不安の声があがっている。
来期は、行楽シーズンに入ることによる、イベント・催事での人流の活発化、観光客の増加に期待する一方、引き続き建設資材価格・エネルギー価格の高騰が予想され、予断を許さない状況が続くと見込まれる。また、新型コロナウイルスの感染が再度まん延してきており、戻りつつある消費マインドの低下が懸念される。また、令和6年1月から開始される改正電子帳簿保存法について事業者への周知が必要である。

		前期状況（4～6月期）	今期状況（7～9月期）	来期見通し（10～12月期）	調査事業所のコメント
建設業		→	→	→	今期は、公共投資は対前年比で横ばい圏、新設住宅着工件数については持ち直しの動きがみられた。依然として生コン等の建設資材価格は高止まりを続け、収益を圧迫している。また、建設業界に与えられた時間外労働の上限規制適用の猶予期間が2024年4月に迫り対応に追われている。 来期も、原材料価格の高止まりは続く見込みであり予断を許さない状況が続く。公共・民間工事ともに物価スライド条項が適切に設定・適用されるよう環境整備が急務である。
製造業		→	→	→	今期は、前期に引き続き原材料価格の高騰と電気料金の値上げに伴い、小規模企業が価格に転嫁できず収益が悪化した。また、「島根県エネルギーコスト削減対策緊急支援事業補助金」などを活用し、設備の更新を行う事業所も多かった。 来期は、材料やエネルギー価格の上昇、特に電気料金は高水準で推移していることと、円安、コストアップ、人手不足など課題が多く厳しい状況が続くと見込まれる。
卸売業		→	→	→	今期は、依然として原油物価の高騰が続くが価格転嫁が進まず、収益が悪化傾向にある。消費者物価指数の上昇が長期化する中、コロナ貸付の返済やインボイス制度の対応に迫られた。 来期は、インボイス制度開始に伴う事務処理の対応が求められる。また、2024年4月からトラックドライバーの労働時間の規制強化が始まり、輸送量の減少が懸念される物流の「2024年問題」についての対応が必要。
小売業	衣料品	→	→	→	今期は、対前年比で売上が少し伸びたものの、猛暑の影響でまちなかへ出かける人が減少したため、対前期比では売上が減少した。秋物衣料も動きが鈍かった。その中でもTシャツや短パン等カジュアル衣料は前年より売上増加となった。 来期は、秋の旅行シーズンを迎え、お出かけ需要が期待される。一方で、単価が高いスーツ等のフォーマル商品がメーカーの生産調整により顧客のニーズに合わなかった場合に、販売機会を逃すことを懸念。
	家電	→	→	→	今期は、7月、8月の気温上昇に伴い、エアコン等夏物商品は一定の需要があった。また、「島根県エネルギーコスト削減対策緊急支援事業補助金」を活用した設備の更新需要も引き続きあった。 来期は、松江市の省エネ補助金も創設されたことから、更新需要を取り込むことで、消費の回復を図りたい。また、気温も下がるため冬物商品の動きに期待したい。
	自動車	↗	↗	↗	今期は、新型モデルやモデルチェンジ車の導入、生産調整の影響が縮小してきており生産台数が回復してきたことにより、販売台数は前年同月比増であった。 来期は、ガソリン価格高騰の影響等で低燃費車やEV需要の後押しによる販売台数の回復により当面は売上増加が続くものと予想。
	総合量販店	→	↗	↗	今期は、市内百貨店が令和6年1月に閉店することが決定。老舗店であるため惜しまれる声も多く、駆け込みによる衣料品と家庭用品が、またお中元の買い回りも高額な食品を中心にとした需要があり、来店数・売上共に増加し前年比を上回った。 来期は、個人消費の持ち直しがみられることで、量販店やホームセンターは引続き堅調に推移。百貨店においては年末商戦に期待。
	スーパー	↗	↗	↗	今期は、盆の帰省、夏休み期間中の旅行客の多さが売上アップにつながった。特にガスコンロやレジャーシートなどの行楽向け商品も好調に推移し、また、猛暑による季節商品の動きも顕著であった。お中元の商品も猛暑は反映してか、涼を感じる飲料が多く買い求められた。 来期は、競合の関係で原価上昇分を売価に反映できていない商品もあるため、利益率の減少が懸念される。
	特産品	→	↗	↗	今期は、観光客を中心に当地を訪れる方が増えたことと、ビジネスの出張に伴う手土産としての需要もあって土産品を中心に売上は前年同期比増となったものの仕入原価の高騰により収益は微増。 来期は、仕入原価の高騰は引続くものと予想され、収益を圧迫するものと予想される。
サービス業	飲食	→	↗	↗	今期は、祭やイベント等で街中の活気が戻り、観光需要なども回復基調で飲食店の利用機会が増える要因となった。そういった恩恵に預かることができない店舗も見られたり、コロナ前の水準にまでは戻っていない厳しい面もあるが、前年同期比では相対的に売上は増加した。 来期は、行楽シーズンや忘年会時期を迎え、団体需要の回復にも期待を持つ一方で、人出不足や物価の高騰が業績回復の足かせとなることを懸念。
	旅館・ホテル	↗	↗	↗	今期は、全国旅行支援の期間延長を受け、さらに新型コロナウイルス5類移行などが追い風となり売上及び稼働率は上昇した。コロナの影響が落ち着いたことにより家族旅行・ビジネス宿泊客も好調に推移し、ほぼコロナ前の数字に近づいているものの、従業員の不足から需要に追いついていない状況も見られる。 来期は、週末を中心に引き続き宿泊予約は好調と見込まれる。しかし、全国旅行支援終了、電気代等固定費の増加、台風などによる計画運休増加などの懸念材料もあるため、コロナ禍前の売上に戻るのには時間を要する。
	運輸・旅客	→	→	↗	今期は、物価高騰等により荷動きが悪かったが、コロナ禍からの回復基調で経済活動が活発化しており、輸送需要が増している。昼夜ともタクシーの稼働が良く、貸切バスについても学校の各種大会が再開されて乗用が増している。乗務員不足に対し、社員（乗務員）からの紹介やスマホで検索できるネット募集もすることで、採用が計画通り出来た事業所もある。 来期は、燃料費等運行費用のコストは増加しているが、行動増加が見込まれ増収に期待したい。また、流通の「2024年問題」についての対応が必要。

※売上の前年同期比について ↗ → ↘ により表しています。